

震災ボランティア派遣 FAX通信⑱



2011年8月3日

週末ボランティアもOK!

各組合・地域労連

御中

青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール ao110@kenrouren.jp

【発信者】事務局長 有馬美恵

7/24~27高教組チーム4人 参加した高校生からの手記



真ん中が高校生の石岡君。高教組の谷崎委員長と片桐書記長にはさまれて。

私が被災地に行きたいという要望を聞いて責任者として一緒に来てくださった方達、経費を出してくれた方達本当にありがとうございます。今回三日間被災地にボランティアとして訪問して被災地の現状を実際に見て理解するとともにたくさんのお会いがありいろいろと学ぶ事がありました。

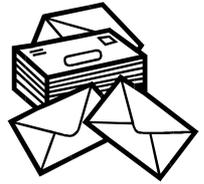
一日目は、住田町に宿泊し、二日にボランティアセンターへと向かいました。ボランティアセンターは山の中にあり外国人などいろいろな人達が集まっていた。

ボランティア一日目の仕事は礼状書きという仕事でした。被災地でのボランティアといえばガレキの撤去作業などを想像していたので少し驚きました。この礼状書きという作業は支援をして下さった方一人一人に礼状を書くという作業です。その礼状の量が大量であったため間に合わずこの仕事があったのだと思います。

ボランティアセンターから、礼状を書いて欲しいと依頼があった建設業者サンの事務所へ向かう途中に被災された地域が続いていました。その地域は近くに海がある訳でもなく何故

被災されたのか疑問に思い、訳を聞いてみると津波が川を上ってきたという事でした。建物があつたであろう所はガレキと重機しかありませんでした。海から何キロか離れているのにも関わらずこんなにも被害を及ぼす津波の力を知りました。

事務所につくとその事務所はプレハブで出来ていて、その周りに仮設住宅が並んでいました。事務所に訪問し仕事を始めました。書く事が嫌いな俺は礼状書きという作業はとても大変でしたが被災者のためにと必死に書き続けました。



ちょうど仕事が終わった頃にこの会社の社長サンが事務所の私たちの作業をしている所に顔を出して話をさせていただきました。話を聞くとこの被災した町に温泉を掘りたいという事でした。温泉が癒しの場になるとともに再会の場になるという事を話して頂き私はその話に強く共感し感動しました。この社長は町全体が被害にあつてから10日間で「復興の湯」という名前で温泉を無償で市民に今も貸し出しています。あるものだけですぐに何かを作る、口だけじゃなく行動する、被災しても立ち上がる強い心を持つ社長さんに尊敬しました。

社長の住む仮設住宅を見学させていただきました。仮設住宅はなかなかのスペースがあり、あまり苦にならない部屋だと感じました。

ボランティアセンターへの帰りに陸前高田市の街並みを拝見しました。言葉が出ないです。想像を絶するとはこのような時に使うのかなと思いました。街全体がなくなっていました。あたまの中だけでは想像できない世界だったので実際に体で感じる事ができ、とても良かったです。

そのままボランティアセンターへ戻り手続きを終えて、「復興の湯」につかり宿に戻りました。お風呂も気持ちよかったです。そこでお風呂を管理している人達の強さに心打たれました。



ボランティアセンターへの帰りに陸前高田市の街並みを拝見しました。言葉が出ないです。想像を絶するとはこのような時に使うのかなと思いました。街全体がなくなっていました。あたまの中だけでは想像できない世界だったので実際に体で感じる事ができ、とても良かったです。

そのままボランティアセンターへ戻り手続きを終えて、「復興の湯」につかり宿に戻りました。お風呂も気持ちよかったです。そこでお風呂を管理している人達の強さに心打たれました。

〜〜 3日目からは 次号へつづく 〜

